

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

| | |
|---------|----------------------|
| 上位の施策名称 | 施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用 |
|---------|----------------------|

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|-------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 文化財課長 丹羽野 裕 | 電話番号 | 0852-22-6468 |
|----------|-------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|---|--|--|
| 事務事業の名称 | 埋蔵文化財調査センター事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | 県民、公共事業者 | |
| | (2) 意図 | 開発地域内の埋蔵文化財発掘調査を行いその価値を明らかにして、調査で得た情報を県民に還元すると同時に開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。 | |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の価値を明らかにし、保存や活用を図るために、国土交通省や県（土木部）等が広域的に行う公共事業予定地の埋蔵文化財調査を実施する。 ・埋蔵文化財関係資料を有効活用するため、埋蔵文化財調査センター施設・設備及び収蔵する遺物や図書等の関係資料を、良好な状態で維持管理する。 ・発掘調査の成果や文化財関連事業に対する理解を深めてもらうために、県民に対し広報等を行う。 | | |

2. 成果参考指標

| (1) 成果参考指標 | 指標名 | 発掘調査が円滑に行われなかった件数 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
|------------|------------|-------------------|-----|------|------|------|------|------|----|
| | | | 目標値 | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |
| 式・定義 | 遅延した発掘調査件数 | | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | |
| | | | 達成率 | | 0.00 | 0.00 | | | % |
| 指標名 | 式・定義 | | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
| | | | 目標値 | | 0.00 | 0.00 | | | |
| 式・定義 | | | 実績値 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | |
| | | | 達成率 | | 0.00 | 0.00 | | | % |

3. 事業費

| | 26年度実績 | 27年度計画 |
|-------------|---------|---------|
| 事業費(b) (千円) | 509,309 | 737,438 |
| うち一般財源(千円) | 79,389 | 43,121 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|----------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ③改善策を検討中 |
|---------------------|----------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

公共事業に伴う発掘調査は、開発事業者と調整をほかりつつ計画的に実施している。現在、山陰自動車道が6路線区間において事業着手されたことに伴い、発掘調査事業が急増し、平成30年前後までこの状況が続くことが予想されており、調査量の増加に対応できるように調査体制を維持・整備することが必要。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・本発掘調査に先立ち、試掘調査を先行して進め、見込まれる調査量を事前に把握している。
- ・埋蔵センターに保管されている資料の活用をはかる再整理事業により、県立古代出雲歴史博物館や八雲立つ風土記の丘展示学習館等の展示や普及活用事業に反映させることで、発掘成果の還元を努めている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・山陰自動車道関連の埋蔵文化財発掘調査が急増したことで、埋蔵文化財調査センター全体の事業量が增加。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・山陰自動車道の複数路線が同時期に事業化となり、大規模公共事業が急増した。

③原因を解消するための「課題」

- ・業務スケジュールの見直しや市町村との連携などにより、調査量に対応する調査体制を確保する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・関係機関（市町村等）の協力を得つつ、発掘調査体制の整備を図る。
- ・国交省や県土木部と密な連絡調整を図り、効率的な調査計画に基づいた調査を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）